構内・災害時用ノーパンク自転車 ハザードランナー 20インチ

取扱説明書

この度は TRUSCO® 構内･災害時用ノーパンク自転車 をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管し、必要な時にお読みください。

ノーパンク自転車について

「パンクしない自転車」は頑丈な自転車という意味ではありません。激しい乗り方をされると樹脂が破裂し、リム割れを起こす恐れがあります。乗車の際は、優しくお取り扱いください。タイヤは消耗品です。劣化・摩耗での交換につきましては、タイヤ・リム一式での交換になりますので弊社までお問い合わせください。

弊社では、常によりよい製品を目指し、仕様・デザイン・生産技術等、あらゆる面でさまざまな改良を積み重ねております。つきましては、この取扱説明書に記載されている仕様ならびに装備において、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

快適・安全にご利用いただくため、ご使用前に必ずお読みください

- **必ず防犯登録を行ってください。防犯登録の手続きには本誌裏面の自転車販売証明書が必要です。**（詳細は9ページをご参照ください。）
- お子様がご使用になる場合は、保護者の方が必ずこの説明書をよく読んで、正しい乗り方と注意事項などについてご指導ください。
- お読みになった後は大切に保管し、必要な時にお読みください。（販売の証明となる伝票や、運送会社の送り状控えなども一緒に保管ください。）自転車を他人に譲る場合は、この取扱説明書も一緒にお渡しください。
- 購入後の初期点検およびに定期点検は、必ず実施してください。
- この自転車の取扱・点検・調整などについて不明な点は、弊社お客様相談室、またはお近くの自転車店にご相談ください。
- 整備や故障、修理などで部品を交換される場合は、お買い上げ店、または弊社お客様相談室にご相談いただき、自転車が常に完全な状態であるようお心掛けください。

※商品の基本的なセッティングはされておりますが、「輸送時の振動」や「初期伸び」などで、お客様に調整して頂かなければならない場合がございます。予めご了承ください。

警告表示 警告表示は危険の程度に応じて次の区分で表示していますので、特に注意してください。

警 告　取扱を誤った時に、使用者が死亡もしくは重傷を負う危険性が想定されるもの。

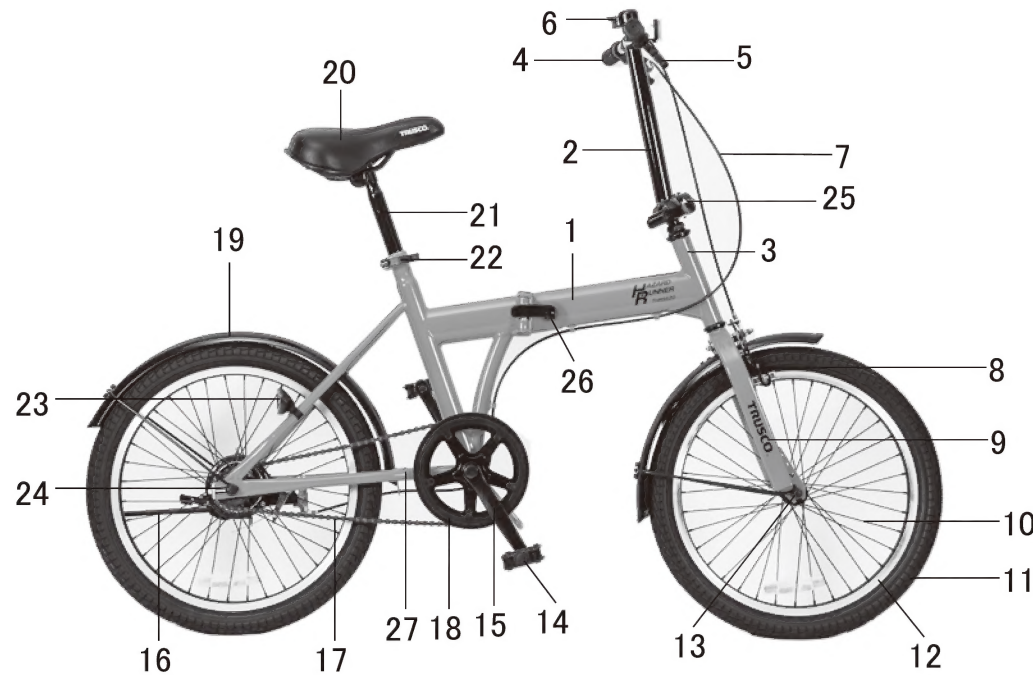
注 意　取扱を誤った時に、使用者が傷害を負う危険が想定されるとき及び物的損害のみの発生が想定されるもの。

禁 止　危険の程度とは関係なく道路交通法で禁止されている行為。誤ると思わぬ事故・ケガを負う危険が予知されるもの。

強 制　使用者に必ず実行していただきたいこと。

目　次

自転車各部の名称

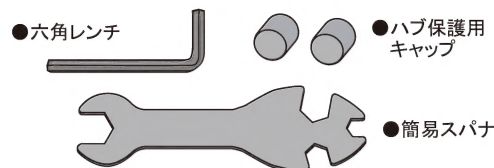
※下記の番号は、5～7ページの説明に使用しておりますので、照らし合わせてご覧ください。

1. フレーム
2. ハンドルポスト
3. ハンドルチューブ
4. グリップ(ニギリ部)
5. ブレーキレバー
6. ベル
7. ブレーキワイヤー
8. ブレーキ
9. 前フォーク
10. スポーク
11. ノーパンクタイヤ
12. リム
13. ハブ
14. ペダル
15. クランク
16. スタンド
17. チェーン
18. チェーンカバー
19. 泥除け
20. サドル
21. シートポスト
22. サドル固定部
23. リフレクター
24. フリーホイール
25. ハンドルポスト固定レバー
26. フレーム固定レバー
27. 車体番号刻印位置

付属品

※付属の工具は組み立てに必要な工具の一部のみです。
不足する工具はお客様にてご用意ください。

●六角レンチ

●簡易スパナ

●ハブ保護用キャップ

●タイヤ固定バンド
※折畳自転車を折り畳んだときに、タイヤが広がらないよう固定するときに使用します。

警告事項

サドルやハンドルは引上げ限界線より上に上げた状態で乗らない

禁止

サドルやハンドルがはずれたり折れたりして、転倒によるケガの恐れがあります。最も高くした場合でも、シートポストおよびハンドルポストの下端が、6.5cm以上パイプに入るようにしてください。シートポストおよびハンドルポストの限界線(MAX)が見えてはいけません。

グリップ(ニギリ部)のゆるんでいるものには乗らない

禁止

グリップ(ニギリ部)の弾性が低下し、回るものは、ハンドルから抜ける恐れがあり、大変危険です。自転車店ですぐに取り換えてください。

自分で改造しない

禁止

部品が外れたり、こわれたりして転倒し、ケガをする恐れがあります。

強制　修理や部品の取り付けは自転車店にご相談ください。

スピードを出しすぎない

禁止

スピードを出しすぎると、ハンドル操作が難しく、ブレーキも効かなくなり、事故を招く恐れがあり危険です。

ぬれた道や下り坂ではスピードを出さない

禁止

ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、思わぬ事故や転倒によるケガの恐れがあります。

手やハンドルに荷物を下げたりペットをつないだりしない

禁止

バランスをくずして転倒しケガの恐れがあります。

強制　別売りの ワンタッチ折り畳みカゴ THR20KGが装着できます。荷物はカゴの中に入れて走行してください。

スポークの間に固形物(ボール等)を入れて走らない

禁止

固形物が移動し、ブレーキなどに接触し転倒する恐れがあります。

飲酒時や体調が優れないときは乗らない

禁止

衝突や転倒によるケガの恐れがあります。酒気を帯びているときや、疲れているときは乗らないでください。病気やケガをしている人は乗らないでください。体が不自由な人は十分ご注意ください。メガネを常用している人は必ずメガネをかけてください。

自転車に異常があるときは乗らない

禁止

点検しないで、異常があるまま走行すると、転倒によるケガの恐れがあります。

強制　異常を発見したら自転車店にご相談ください。変形・ヒビ割れ等異常のある部品は必ず交換してください。曲がりを直しての再使用は破損の原因になりますので、絶対にしないでください。衝突したとき、前フォークが曲がることによりショックを吸収し乗員のケガを防止する役目をもっています。

ハンドルから手を離さない

(手放し運転や傘をさしての運転、携帯電話の使用など)

禁止

バランスを崩して転倒し、ケガの恐れがあります。また、危険を回避するための急な操作ができず、事故をまねく恐れがあります。片手運転は絶対にしないでください。

外部の音を遮断した状態で乗らない

禁止

イヤフォンやヘッドフォンを装着した状態での使用は、周囲の状況把握ができず注意力が低下し、事故をまねく恐れがあります。

傘やステッキ、釣竿などを車体に差し込んだり、吊り下げたりしない

禁止

車輪をロック(固定)させたり、歩行者にケガをさせる恐れがあります。

車輪・ギア・チェーンなど回転しているところに手を触れない、触れさせない

禁止

車輪に巻き込まれたり、はさまれたりして、ケガをする恐れがあります。

ブレーキの制動面に注油しない

禁止

ブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。

坂道で駐停車をしない

禁止

坂道で駐停車をすると思わぬ事故が発生する恐れがあります。

強制　平坦で安全な路面に駐停車してください。

走りながらライトの操作をしない

禁止

靴が車輪に巻き込まれ転倒しケガをする恐れがあります。

強制　必ず停止してからライトの操作をしてください。

警告事項

凹凸の激しいところを走らない
（歩道の段差や溝、階段など）

●凹凸路面では
簡易舗装の道では、いたるところに穴があいています。スピードをおさえて通りましょう。

●軌道敷では
原則として入ってはいけません。もし入るときには、軌道敷のすき間にタイヤを挟まないよう十分注意してください。危ないと思ったら、降りて押して通ってください。

●山路では
路面が荒れています。落石にも十分気をつけてください。ガケくずれの危険がありますので、路肩に寄りすぎないよう注意が必要です。凹凸状態の道ではペダルが地面に接触しないよう道を選んで走ってください。

●ジャリ道では
ハンドルがとられ、ふらつきやすいうえ、スリップしたり、タイヤ、リムを損傷する恐れがあります。無理に乗らず、降りて押しましょう。

二人乗りやアクロバット的な乗り方はしない

立ちこぎ等、アクロバティック的な乗り方は転倒や落車によるケガの恐れがあります。また、二人乗りは法律で禁止されており、たいへん危険です。絶対にやめましょう。

視界が悪いときは無灯火で乗らない
（夜間や霧などのとき）

別売の LED3灯式ライト THRLED が装着できます。
ランプが点灯しないときは押して歩いてください。

●夜間
夜間に乗車する場合は、必ずヘッドランプを点灯してください。ヘッドランプの明かりは、路面状態を見るのみでなく、他の車両や歩行者からの視認をしやすくする効果があります。走行中ランプの電球がきれた場合には新しいものと交換し、ご使用ください。電球は必ずランプの仕様にあわせてご使用ください。

●霧のとき
霧の深い日は見通しが悪く、たいへん危険な状態です。必ずヘッドランプを点けて走りましょう。＊雨・強風・雪・霧の中を走った後は手入れを十分しておかないと、サビや故障が発生する場合がございます。ドロや水気をよくふきとり、必要部分に注油しておきましょう。

リフレクターが汚れていたり破損したままの状態で乗らない

テールランプおよびリフレクターは、後続の車両からの確認をするうえでたいへん重要です。汚れ・損傷や故障の場合には直ちに修理をしてご使用ください。

ハンドルの形を変えない

ハンドルを上向きや前向きにして乗ると、乗車姿勢が不自然なため走行が不安定となり、転倒しケガをする恐れがあります。

車輪の脱着やサドルの調整後、締め付けを確認しないまま乗らない

車輪やサドルが外れて、転倒によるケガの恐れがあります。必ず乗る前に確認してください。

●車輪について

自転車を持ち上げて、車輪を上から強く叩き、車輪がずれたりガタつかいたりせずに、前フォークやフレームにしっかり固定されていることを確認してください。

●サドルについて

上下・左右および前後にガタや動きがないこと、フレームとまっすぐに取り付いていることを確認してください。また、サドルの前後を持って上下・左右に力を加えた場合に動きがなく、しっかりと固定されていることを確認してください。

視界の悪いときは乗らずに押して歩く

見通しが悪いと、衝突や転倒の恐れがありますので、乗らずに押すようにしましょう。

踏み台代わりなど走行以外の用途で使用しない

転倒によるケガの恐れがあります。

山岳・河川などでは、絶対に使用しない

ハンドル・フレームなどが折損したり、ブレーキが効かなくなったりして、転倒してケガをする恐れがあります。

幼児を乗せない

自転車が倒れてケガの恐れがあります。

注意事項

カーブではスピードを出さない

曲がりきれずに思わぬ事故を招きます。

カーブではブレーキ操作に注意

横すべりをおこし転倒する危険があります。
スピードを落として走りましょう。

自動車の横を走り抜けるときはスピードを出さない

自動車のドアが急に開き衝突の危険があります。

スタンドを完全に跳ね上げていない状態で乗らない

カーブのときスタンドが地面と接触し転倒によるケガの恐れがあります。

スタンドを上げるときは、必ずロックを解除してください。

走行中ブレーキワイヤーを引っ張ったり曲げたりしない

カーブで曲がる側のペダルを下にしない

ペダルが地面と接触し転倒によるケガの恐れがあります。自転車は自動車と違い、コーナリングでカーブするとき、内側に傾きます。この傾斜によって遠心力と自転車の重量のバランスをとっています。スピードを出しすぎていると、このバランスが崩れカーブを曲がりきれなかったり、道路のセンターラインを越えてしまったりする場合があります。

●カーブの手前ではスピードを落とす
カーブでの見通しはききませんので、必ず手前で十分な減速をしましょう。

●ペダルをとめる
コーナリング中はペダルを止めてください。傾斜したとき路上の凸部にペダルがあたることがあり危険です。カーブする側のペダルを上にするか、左右水平にしておいてください。

●ブレーキをかけない
コーナリングの最中に急ブレーキをかけると、横スベリをおこし転倒する危険があります。

●坂道では
下り坂ではスピードの出しすぎは危険です。登り坂ではハンドルがふらつきやすいことを考慮し無理に乗らず、降りて押しましょう。

片側ブレーキはかけない

片側ブレーキ（特に前ブレーキ）をかけると、バランスを崩して転倒し、ケガをする恐れがあります。走行中は常にブレーキレバーをすぐ握れるようにしてブレーキは前後ともかけてください。

急ブレーキはかけない

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する恐れがあります。前方に注意して安全走行してください。

すべりやすい所では乗らない

（雪道や凍結した道、工事用の鉄板の上など）スリップして転倒によるケガの恐れがあります。避けて通るか、押して歩いてください。

●砂・小石　舗装道路の砂や小石はスリップを招きます。急ブレーキ、急旋回は厳禁です。

●ドブ　市街地走行では溝に注意。思わぬところでドブにはまる危険があります。

●鉄板道路　工事中の鉄板道路では、隙間やスリップに注意してください。特に雨の日はスリップしやすく危険です。走り慣れない道を走るときは、いつもより注意が必要です。

●雪　雪の日には乗らずに、降りて押して歩いてください。また、冬は晴れた日でも日影の路面が凍っていたり、雪が残っていたりしますので注意が必要です。

すべりやすい靴やハイヒールをはいて乗らない

足がペダルから外れて転倒する恐れがあります。素足、ゲタ、サンダル、かかとの高い靴でのご乗車はおやめください。動作のしやすい履物をお選びください。安全確保のために走行中はヘルメットを必ず着用するようにしてください。尚、風などで飛ばないようにしっかりと留めてください。

乗るときは巻き込まれやすい服装や荷物を避ける（長いスカートやマフラー、傘など）

車輪やギアに巻き込んで転倒によるケガの恐れがあります。着物やスソの長いスカートなど、動作のしにくい服装はおやめください。肌を露出する服装では乗らないでください。転倒したり、ぶつかったりしたときケガをする恐れがあります。

雨・強風のとき

●雨のとき
服装（雨具）を整える。傘を持っての片手運転は絶対におやめください。雨ガッパやレインコートを着るときは、裾が引っかからないように、必ずセイフティバンド、輪ゴム、クリップなどで留めてください。また、雨の日はブレーキが効きにくくスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。

●強風のとき
ハンドルがふらつきやすく、安全に運転できません。降りて押して歩きましょう。

お子様が乗られる場合は

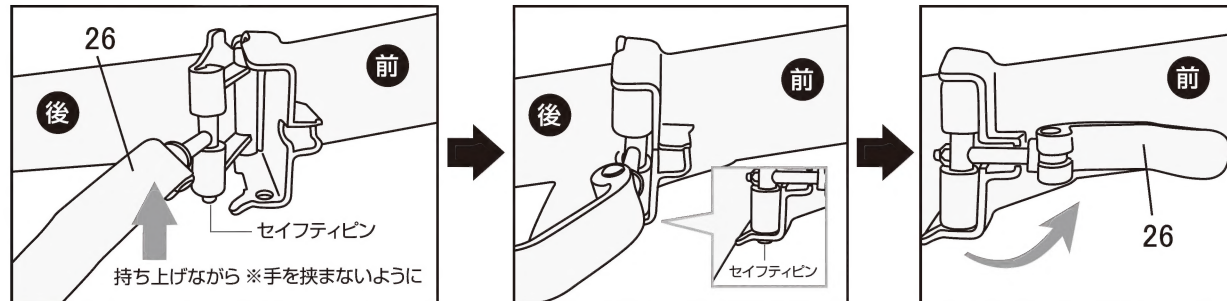
ブレーキレバーに指が届いているかどうか確認してください。また、正しいブレーキのかけ方ができるまで繰り返し教えてください。

主な各部の取扱いと組立・調整

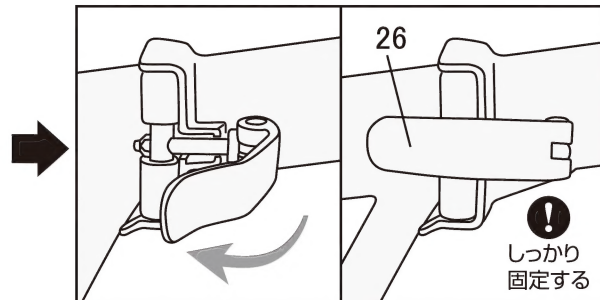
強制　必ずお読みになってから、ご使用ください

強制

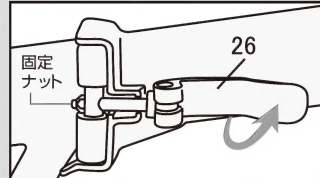
配送直後のお願い
振動などで各部にネジなどの緩みがないか確認してください。また、新しい自転車の場合、ブレーキワイヤーが縮んでいる場合がありますので、前後ブレーキレバー(5)を数回握って正常な状態に戻して、ご使用ください。組み立てる前には、ブレーキ・変速ワイヤーの挟み込みがないか確認してください。

折畳みフレームの組立方法

固定レバー(26)をフレームに対して直角にし、持ち上げながら、フレームをまっすぐにして、ジョイント部をかみ合わせます。

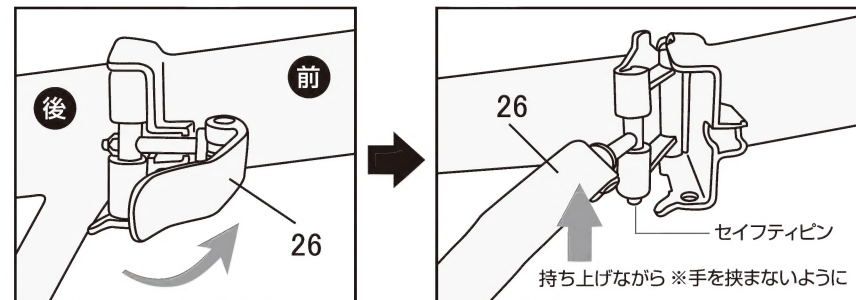
ジョイント部が合ったら、セイフティピンによって、仮のロックがかかります。

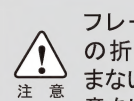
固定レバー(26)の向きを、右手前方に移動させます。

固定レバー(26)先端の黒いレバーを左に折り曲げ、手のひらが少し痛くなるくらいの力で、しっかりと固定して完成です。

固定力の調整方法

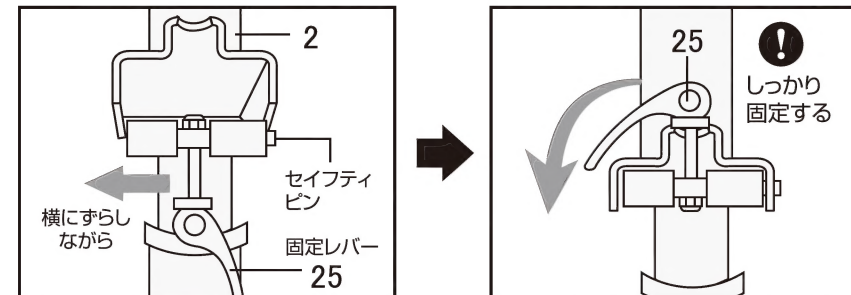
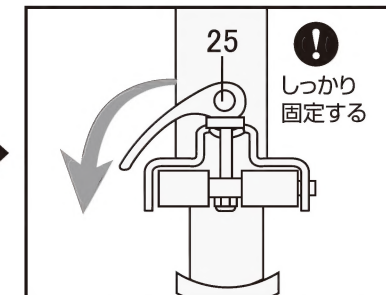
固定が固すぎ・緩すぎの場合は、固定ナットを簡易スパナでロックし、固定レバーを回転して調整してください。

注意　フレーム前部と後部の折畳み部で指を挟まないように十分に注意をしてください。

警告　フレームは、しっかりと固定してください。

折畳みフレームの折畳み方法

固定レバー(26)を右方向に解除します。

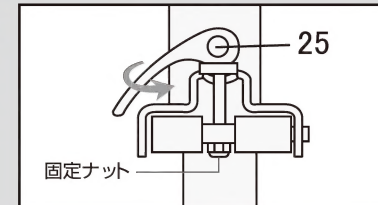
固定レバー(26)の向きを前方に移動させフレームに対して直角にし、レバーを持ち上げながら畳みます。

注意　フレーム前部と後部の折畳み部で指を挟まないように十分に注意をしてください。

ハンドルポストの固定

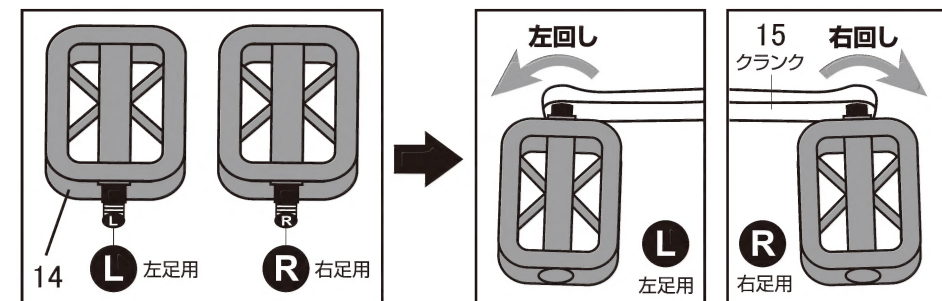
※ハンドルを組み立てる際、ブレーキワイヤー(7)がねじれていないか、ブレーキ(8)が前方にあるかを確認してください。
（ハンドルと前輪が反対向き、または一回転している場合があり、正確に組立が行えない場合があります。）

固定レバー(25)を横に押しながら(セイフティピンが解除された状態)ハンドルポスト(2)を起こし、ジョイント部をかみ合わせます。

固定レバー(25)を、手のひらが少し痛くなるくらいの力で押し下げ、しっかりと固定して完成です。

ハンドル折畳みのジョイント部分は、フレーム（タイヤ）に対してななめの状態が正常な向きです。折り畳む際に、タイヤに当たらないような仕組みになってます。

固定力の調整方法

固定が固すぎ・緩すぎの場合は、固定ナットを簡易スパナでロックし、固定レバーを回転して調整してください。

ペダルの取り付け

※左側のペダルは、あらかじめ本体に装着してあります。

（簡易スパナ使用）

ペダル軸に「R」と刻印があるものは右足用。「L」と刻印があるものは左足用です。取付の際の回す方向が違いますので、お間違えのないようご確認ください。

クランク(15)にペダル(14)を差込みます。最初に手で「R」は右回し・「L」は左回しにネジ部に装着させ、最後に工具でしっかりと締付けて、取付完了です。

※初めは必ず手で回して取り付けをし、回らなくなってから工具を使用して固定して下さい。締めすぎるとネジ部分が潰れる可能性がございますのでご注意ください。（保証対象外となります。）

強制

ペダルの取り付けが緩い場合、部品破損や事故の原因となります。しっかりと取り付けを行ってください。定期的にペダル取り付けのゆるみがないことをご確認ください。

主な各部の取扱いと組立・調整

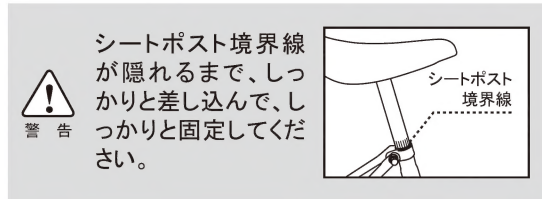
サドルの調整

※サドル先端の差込部分に、黒い保護キャップが点いている場合がございます。保護キャップは外してからサドルを差し込んでください。

■サドルの高さ

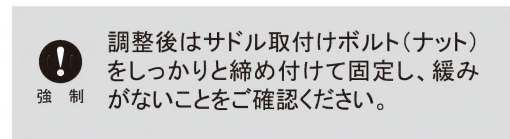
- ●サドルに腰をおろし、ペダルを一番下にして足を乗せた時に、ひざが軽く曲がる程度の高さが適当です。
- ●背が小さい方や初心者の方は、両足が地面に確実に接するくらいの高さに調整してください。
- ●悪路および下り坂を走行する場合は、両足が地面にぴったりと着く高さに調整してください。

警告

シートポスト境界線が隠れるまで、しっかりと差し込んで、しっかりと固定してください。

■サドルの前後位置・角度調節

サドルの前後位置は、ペダルを斜め前の一番力のかかる位置にして足を乗せた時、ひざの中心から垂線がペダルの中心を通るようにするのが標準です。また、角度はサドル上面が地面に対してほぼ水平になるように調整してください。

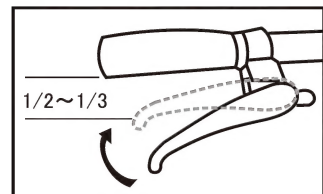
強制

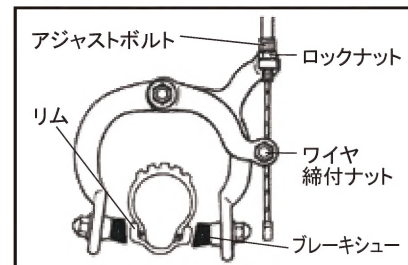
調整後はサドル取付けボルト（ナット）をしっかりと締め付けて固定し、緩みがないことをご確認ください。

■サドルの上げ下げ

サドル固定レバー(22)を、「CLOSE」方向に倒し、しっかりと固定します。（「OPEN」方向に引くと、シートポストがゆるみます。）
※十分に固定しない場合は、レバー反対側の調整ナットを回して調整してください。

ブレーキの調整

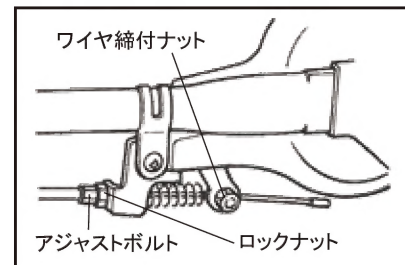
ブレーキや変速機について、最終調整は万全におこなっておりますが、初期において調整が必要な場合がございます。その場合、調整は難しい作業になりますので、お手数ですがお近くの自転車店での調整をお願い致します。また、お客様で調整をされる場合は下記をご参考下さい。（あくまでご参考ですので自転車店での調整をお勧めします）調整は定期的におこなってください。

■ブレーキの調整

ブレーキは、安全に乗るためにいちばん大切なものです。いつも最高の性能が発揮できるように、乗車前には必ず点検してください。ブレーキレバーを操作し、レバーの開きが1/2〜1/3くらいでブレーキが効くようにしてください。

■ブレーキレバーの調整

【前ブレーキ】

【後ろブレーキ】

ブレーキを長期間使用すると、ブレーキワイヤの伸びなどによりブレーキの効きが悪くなります。その場合、ロックナットを一時ゆるめて、アジャストボルトを回して調整します。調整後はロックナットをしっかり締めてください。リムとブレーキシューの隙間が2㎜くらいが適当です。

ブレーキの効きが悪い場合は、お近くの自転車店で調整をしてください。

乗る前の点検

強制

■初期点検・定期点検について

購入後２ケ月以内は、ネジなどのなじみの影響でゆるみが生じやすいので、２ケ月以内に初期点検を受けてください。また、初期点検のあとも異常を感じた時はもちろん、１年ごとに定期点検は受けてください。（有料）

■乗る前の点検について

安全にご乗車いただくために、乗る前に必ず点検を実施してください。点検・調整をしたあとは、必ずテスト走行をしてください。異常があった時や、わからない点がある場合は、乗る前に弊社お客様相談室までご相談ください。部品に異常や変形がありましたら、そのまま乗車せず、即座に部品の交換・修理を受けてください。そのまま乗車を続けますと、思わぬケガや事故につながる危険性があります。

■各部品の交換時期

- ●ブレーキワイヤーは、異常がなくても２年に１回は交換してください。
- ●タイヤは接地面のトレッド溝が一部でもなくなる前に交換してください。
- ●ブレーキゴムは制動面の溝が残り1㎜になる前に交換してください。

禁止

部品やフレーム類の変形や曲がりを直しての再利用は絶対にしないでください。

点検の項目

※図は基本的な点検項目ですので、実際の商品とは異なる場合があります。

標準適応身長

サドルにまたがりペダルに足を載せたとき、ひざにやや余裕ができるようにサドルの高さを調整してください。
また、小さな方や初心者はサドルをいちばん下げた状態で両足がかかとまでべったりと地面につくように調整してください。

身 長（cm）	120	125	130	135	140	145	150	155	160	165	170	175	180
サドル高（cm）	62	65	69	72	75	78	81	84	87	90	93	96	99

※この場合の「サドル高」は、地上からサドル上部までの高さを意味します。上記のサイズは、日本人の標準体位によるもので、腕や脚などの長さにより多少サドル高に差がでます。

お手入れの方法

日常のお手入れ

大切な自転車をいつまでも長持ちさせ、快適にお乗りいただくために定期的にお手入れしてください。
特に雨の後の掃除は念入りに行いましょう。

■メッキ部分

メッキ部分は、乾いた布で泥やホコリをきれいに落とした後に、防錆油やミシン油で磨いておくのが長持ちのポイントです。

■ステンレス部分

ステンレスでも材質により、放置するとサビが出る場合があります。表面の汚れを取り、乾いた布で拭いてください。

■その他

サドル、クリップ（樹脂部分）、ライト、泥除けの汚れは薄めた洗剤で拭き取るときれいに取れます。

■注油について

月に1度は注油しましょう。注油箇所は、絵の中の矢印で示されたところに軽く注油してください。

油を注してはいけない箇所

リム・ブレーキゴム・ブレーキドラム内には注油したり、油のついた布で拭いたりしないでください。ブレーキが効かなくなり、大変危険です。

※図、及び内容はイメージですので、実際の商品とは異なる場合があります。

こんなときどうする?

■転倒したとき

転倒、衝突したら、まず何より道路左側によって自動車を避けます。身体に外傷がある場合は、手当てを終えた後、自転車の状態を調べてください。異常がある場合（自転車を横から見て変形していないか、変速機、ブレーキレバー、ペダルは正常か等）は無理に乗らないで、押してください。必ずお近くの自転車店等で点検・調整を受けてください。

■ノーパンクタイヤの交換について

ノーパンクタイヤを交換される場合は、お買上げの販売店または、弊社お客様相談室にご相談ください。

■交通事故

万一、交通事故を起こした場合は、相手が歩行者・自転車・自動車を問わず応急処置のあと速やかに警察に報告してください。事故処理など一切は警察の指示にしたがってください。

■ブレーキの故障やブレーキワイヤが切れたとき

すぐにお近くの自転車店等で修理してください。ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず降りて押してください。

■異常を感じたとき

日常点検および走行中に異常を感じた時は、すみやかに自転車店で点検・整備を受けてください。または弊社お客様相談室にご相談ください。

防犯登録について

■防犯登録とは

防犯登録は、防犯協会連合会が、公安委員会の指定を受け、自転車の盗難防止と被害の早期回復を目的に警察、地区防犯協会と自転車販売店（防犯登録店）で実施しているものです。地域によっては、自転車防犯登録が義務づけられております。
なお、指定を受けていない区域も「防犯登録を受けるよう努めなければならない」と規定されており、登録をおこなってください。

■登録の手続き

各都道府県の防犯登録加盟店（自転車店）、または最寄の交番および防犯協会（警察署の中にある）で防犯登録をすることができます。（有料）
※詳しくは、地域の防犯登録協会までお問い合わせください。

■登録の際に必要なもの

- ●自転車本体（車体番号の確認のため ※車体番号の刻印位置は 右の写真 をご参照ください。）
- ●自転車販売証明書（本誌裏面の下部にあります。必要事項をご記入の上、ご提示ください。）
- ●お買い上げ日が表示された伝票、または運送会社の送り状
- ●ご本人確認の身分証明になるもの（運転免許証・健康保険証など）
- ●お客様の所在地を確認できるもの。

（個人の場合：運転免許証、健康保険証）（法人の場合：ご使用になる拠点の住所が表示された、公共料金の請求書または領収書）

車体番号の刻印位置例

シートポストの下部（ペダルのつけ根後ろ）

廃棄時のお願い

自転車本体、部品を廃棄する際は、各自治体の指示内容に従って処理してください。

品質保証書

お買い上げ年月日　　年　　月　　日 ●保証期間は、お買い上げ日より1年間(ただし保証規定による)・初期不良の交換は7日間以内

ご芳名(自筆ご署名ください)　〒

品質保証書を受け取りました。　電話　(　　)

商品名 構内・災害時用ノーパンク自転車 ハザードランナー　20インチ	型式名 **THR5520**	カラー **オレンジ**

品質保証規定

1.保証修理を受けるための手続き及び条件

保証修理をお受けになる場合は、自転車と本保証書をお買い上げ店または、弊社お客様相談室にご連絡あるいはご持参いただき、保証修理をお申し付けください。(尚、運送業者による引取り・配送を行う場合もございます。)本保証書の提示がないときは保証修理をお受けできません。

＊本保証書の字句等を使用者が書き換えた場合は無効となります。
＊ご贈答・ご転居および他に譲渡する場合は、お買い上げ店または、弊社お客様相談室にご相談ください。
＊お買い上げの日から２ケ月以内に点検をお受けください。以降年１回定期点検整備をお受けください。定期点検・調整は有料です。(尚、弊社お客様相談室で定期点検をお受けになる場合は、別途配送料が必要になります。)
＊この保証書は日本国内で使用される自転車で、車体番号の刻印があるものに適用されます。海外に持ち出す場合は、その時点で打ち切りとなります。(This warranty is valid only for JAPAN.)
＊出張修理は行っておりませんのでご了承ください。
＊保証修理に関するお問い合わせは、お買い上げ店または、弊社お客様相談室にご相談ください。

2.保証できない事項

(A) 次に示すものに起因すると判断される故障は保証対象外です。

1. 取扱説明書に従わない使用、取扱不注意(乗車定員、最大積載量などのオーバーならびに警告・注意・禁止・強制等厳守事項の無視など)による場合。
2. 衝突・転倒・道路の段差等への乗り上げまたは溝などに落ちて生じたもの。
3. 法令の違反行為により生じたもの(二人乗り、最大積載量オーバー・夜間無灯火等)。
4. 保守・整備の不備、または間違いにより生じたもの。
5. 当社が指定する定期点検調整を実施しなかった場合。
6. 使用者が構造・機能を改造または変更したために生じたもの(弊社で設定した部品以外を使用した場合。)
7. レース・ラリー・トライアル・練習等の酷使および、一般に自転車が走行しない場所での走行(道のない山岳ツーリング、土手の傾斜面等)により生じたもの。
8. レンタルサイクルなど不特定多数で使用される場合。
9. 地震・落雷・火災・水害・公害・その他人災・天災・地変によって生じたもの。
10. 手入れ不十分。保管場所の不備および時の経過により生じた不具合(メッキ・塗装・カラー部品の自然褪色・サビ)、およびプラスチック部品等の自然褪色。
11. 部品の通常の磨耗または疲労と認めたもの(タイヤ・ブレーキ用ゴム等のゴム類)。
12. くぎ・ビン・ガラス・切削くず・鋭利な石ころ・リム打ち・いたずら等で生じるタイヤの破損。
13. 一般に機能上問題のない感覚的現象(音・振動)。
14. ペダルの取り付け不備による故障。
15. 使用中に発生した塗装傷・フレームなどの変形。

(B) 次に示すものの費用はお客様のご負担となります。

1. 保証対象外部品、およびその交換費用(ブレーキゴム、ワイヤー、タイヤ等の磨耗による交換等)。
2. 点検(定期点検を含む)整備、清掃等の費用。
3. 本保証書に示す条件以外の費用。
4. 本製品の故障に起因する付随的費用(本製品を持ち込むために要した費用、修理期間中における代品費用等)。

(C) ～保証修理対象外部品～(次の交換修理はご使用者負担)

タイヤ・スポーク・ブレーキゴム・パット類・グリップ・フラップ・フレームポンプ・口金・カゴ・バッグ・バルブセット・サドル・サドルポスト・ドレスガード等の付属品・ペダルゴム・トゥクリップ・バーテープ・エンドプラグ・リフレクター類・ハブキャップ・ベル・ブレーキワイヤー・ギヤチェンジ用ワイヤー・ワイヤー取付金具、コード類・チェーンカバー・スタンド・乾電池・電装品・電球・レンズ・工具・小ネジ・ナット・スプリング・磨耗品および疲労品　など

3.保証機能部品について

保証期間経過後でも、性能を維持するための保証機能部品が必要な際は、お買い上げ店または弊社にご相談ください。生産中止になった場合は代替品での対応になる場合がございます。予めご了承願います。

■自転車について

この自転車は、弊社の製品規格に基づき厳重な品質管理と検査のもとに製造されたものです。お客様の通常の使用または弊社の取扱説明書に従って使用された状態で、万が一品質上の不具合がおこりましたときは、保証書の内容により、無料修理(以下保証修理)を致します。なお、保証修理は補修または部品の交換によって行い、交換した不具合部品は弊社の所有となります。

■保証書について

この保証書は、本書に明示した期間、条件に基づき保証修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。尚、この保証書は、紛失されても再発行はいたしませんので、十分に内容を確認した上、大切に保管してください。

■購入時の点検

詳細は、取扱説明書をご確認ください。また、「点検・調整チェックリスト」に従い定期点検・整備を行ってください。

チェック欄	点　検	確　認
□	ペダルの取付け	しっかり固定されてスムーズに回転するか
□	ハンドル･サドルの締付け	上下･左右に力を加えて動かなければよい
□	ブレーキの利き	レバーと握りの間が2分の1になるまでにブレーキが利けばよい
□	タイヤ	破損はないか
□	ライトの点灯確認	ライトは点灯するか
□	ベルの作動	よく鳴るか、破損はないか

【保証責任者】

総発売元 **トラスコ中山株式会社**　お客様相談室 0120-509-849

〒105-0004 東京都港区新橋4丁目28番1号　E-mail:techno.center@trusco.co.jp

http://www.orange-book.com/

自転車販売証明書

防犯登録の際に、この販売証明書をご提示ください。

お買い上げ年月日　　年　　月　　日

ご芳名(自筆ご署名ください)　〒

電話　(　　)

メーカー **トラスコ中山株式会社**	カラー **オレンジ**	車体番号
車種 **ミニ**	後輪サイズ **20インチ**	

【販売会社名】　総発売元 **トラスコ中山株式会社**　〒105-0004 東京都港区新橋4丁目28番1号

<本証明書は、弊社商品の自転車をご購入いただいたことを証明するものです。自転車防犯登録を受ける際にご提示ください。>

※防犯登録の際に必要なもの
　●自転車本体　●ご本人確認のための身分証明証(運転免許証または、健康保険証)　●お買い上げ日が表示された伝票、または運送会社の送り状
　●お客様の所在地を確認できるもの
　(個人の場合:運転免許証、健康保険証)　(法人の場合:ご使用になる拠点の住所が表示された、公共料金の請求書または領収書)
※車体番号は、「シートポストの下部」に表示されています。(詳細は9ページをご参照ください。)
※防犯登録には登録料が必要です。詳しくは、地域の自転車防犯登録協会までお問い合わせください。